



### 第13期京都教師塾 入塾式

第13期京都教師塾には243名が入塾し、10月20日に行った入塾式には183名、23日に行った補講には43名の塾生が参加しました。緊張しながらも真摯な態度で臨む皆さんの姿を見て、これからの成長が楽しみになってきました。



心の中には不安や迷いもたくさんあることと思います。しかし、皆さんは一步前に踏み出しました。9ヶ月後には、より成長した自分自身に出会えるように、学びを積み重ねていきましょう。



補講による入塾式



### 第1回京都市教育学講座 荒瀬 克己 指導部顧問 「教師に求めるもの ～京都教師塾開講にあたって～」

午後からは初めての講座です。京都教師塾開講にあたって、教育の本質となる部分のお話をしてくださりました。「高大接続改革」が今進められていますが、高等学校・大学のみならず、それまでの幼稚園・小学校・中学校を含む連続した学びを意識することが大切だと強くおっしゃっていました。

また、子どもの自己肯定感を高めようとするならば、教師となる皆さんが自分のよさや可能性を認識してほしいというメッセージをいただきました。

1回目の分散会テーマは、「これからの時代、教師としての使命を果たすために大事にしたいことは？」です。貧困や格差、少子高齢化といった課題が山積するこれからの時代に生きる子ども達のために、教師として自分なら何を大事にしていきたいかについて話し合いました。まだまだ不安もあるでしょうが、素晴らしいグループアドバイザーの先生、同じ志をもつ心強い仲間と一緒に考え続けていきましょう。





このコーナーでは、「レポート集」に綴られた  
すばらしい学びの1ページを紹介します。  
ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

## 第1回京都市教育学講座【講義】

### 「教師に求めるもの～京都教師塾開講にあたって～」を受講して

#### ① 全体会

全体会で一番印象に残っているのは、「学びを幼稚園から大学までのスパンで見る」ということです。私は小学校の教師をめざしているのですが、そのせいもあって「小学校6年間で充実させればいい」「幼稚園や中学校は引き継ぐだけ」というように考えていました。しかし、今求められているのはキャリア教育、つまり生涯にわたって学び続けられる人間に育てるということを今回学びました。小学校の6年間は子どもの性格や思想の形成に大きく関わる時期なので、今良ければ良いのではなく、将来自立して物事を考え生きていける子どもに育てなければならないなと思いました。

#### ② 分散会

分散会での話し合いで一番熱心に意見が挙がったのは、「子どもの自己肯定感を向上させるには、教師はどういう対応を取ったらよいか」ということでした。班では「褒めること」「信頼を得ること」「一人一人を大切にすること」等いろいろと意見が出たのですが、結局納得のいく答えは出ませんでした。ですが、自己肯定感を上げるために教師がまずすべきことは、子どもとの信頼関係を築くことなのではないかと思いました。

#### ③ まとめ

さらに深く学びたいのは、「自己肯定感の向上」という観点で、努力してもなかなか結果につながらない子に対する言葉かけについてです。自分なりの答えを見つけられるよう頑張ります。

～塾生のレポート集より～

文部科学省が掲げている「子どもの生きる力の育成」を、また、キャリア教育でいうところの「子どもの生きて働く力の育成」を、学校現場でどのように実践していくかを考えて教育活動に取り組むことは大切なことですね。教師塾で仲間とともに幅の広い豊かな学びを積み重ねていかれることを期待しています。

～レポートへのコメントより～

5組



6組



10組



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で  
「子どもと共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！



京都はくくみ憲章